

日本公認会計士協会東海会

柴田 和範 会長



柴田 和範

1956年生まれ。79年3月、立命館大学経営学部卒業。83年3月、公認会計士登録。2013年8月、日本公認会計士協会東海会副会長。16年8月から会長就任。

——公認会計士制度七〇周年を迎えました。

柴田 公認会計士制度は自由業専門資格としては戦後最も早い一九四八年七月六日に制定されました。憲法改正の翌年です。財閥が解体され、国民による資本市場を整備し、経済民主主義を定着させ経済を発展させる必要がありました。最も必要なことは会計制度の整備と会計を遵守し啓蒙する伝道師としての公認会計士を整備することでした。

当時の状況として、国による会計制度に基づかない徴税や、会計記録をしない納税者の間に立つて会計に基づき納税を求める資格者としての公認会計士は、経済社会のインフラでした。公認会計制度は事業会社であれ、非営利法人であれ、国や地方公共団体などの公認会計であれ、会計制度の発展・構築に必然な制度であり今後も発展していきます。

——社会貢献活動として「ハロー！ 会計」に取り組んでいます。

柴田 東海会は全国の中でハ

ロー会計推進に最も取り組んでいます。学校訪問講座と公開講座があります。学校訪問講座と公開講座が三重の三会場で春休み、夏休みに公開講座を開講しましたが、どの会場も盛況でした。お金を正しく稼ぐことは悪いことではなく、稼いだ以上に使えばなくなってしまうという当たり前のことを教えるのですが、会計リテラシーを学ぶことは子供の自立につながるし、貧困対策にもなると確信しています。また、二〇二一年度から学習指導要領で会計が取り上げられる予定です。

——海外進出支援も行っています。

柴田 昨年末、当会主催で東南アジアで活躍している日本人公認会計士を招へいし、各国の経済や労働環境、会計や税務の実態などを講演していただき交流する国際メッセを開催しました。公認会計士は世界進出する企業に合わせて海外展開が早かったため、現地で独立する会計士が多くなります。当地区では中小企業も海外進出しているため税理士会にもお声掛けし